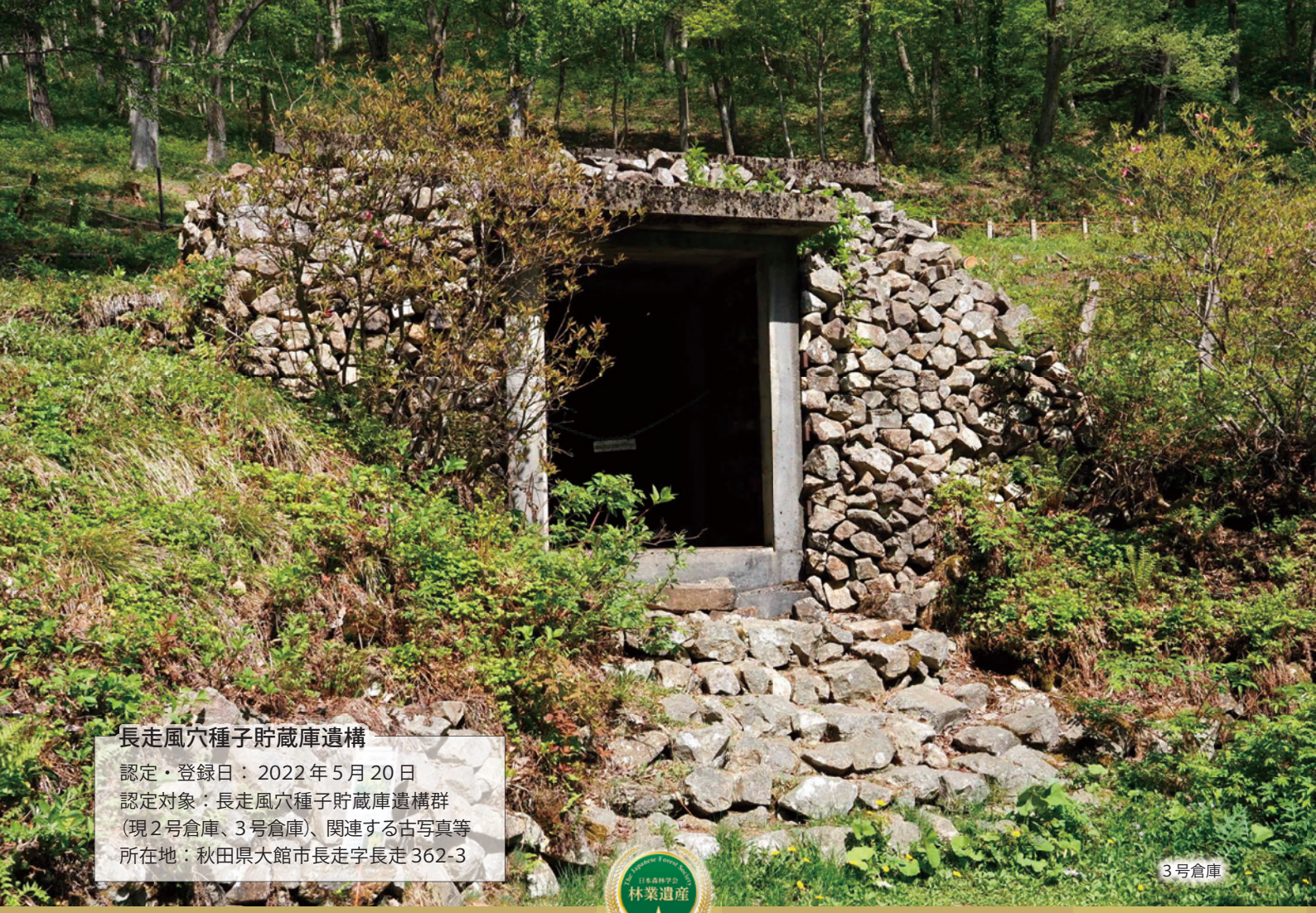

長走風穴種子貯蔵庫遺構
認定・登録日：2022年5月20日
認定対象：長走風穴種子貯蔵庫遺構群
（現2号倉庫、3号倉庫）、関連する古写真等
所在地：秋田県大館市長走字長走362-3

日本森林学会による

日本の林業遺産を知ろう！

長走風穴種子貯蔵庫遺構

大館市教育委員会　鳥潟 幸男

はじめに

長走風穴種子貯蔵庫遺構は、日本三大美林のひとつ秋田スギで有名な矢立峠風景林から数km南の国見山（454m）の西麓にあります。夏季に冷気が崖錐斜面の隙間からしみ出すため、標高が200m程度であるにもかかわらずコケモモなどの高山植物が分布しており、この一帯は「長走風穴高山植物群落」として国の天然記念物に指定されています。明治末から風穴を利用した冷蔵倉庫がこの地に建設され、津軽リンゴや蚕種などが貯蔵されてきました。このたび、スギ等の種子が林業用として貯蔵されてきた歴史が詳しくわかり、林業遺産として認定、登録されましたのでその概略を紹介します。

林業利用の歴史と遺産の価値

風穴はもともと蚕種貯蔵用として全国で広く利用されていましたが、林業利用としては白沢保美博士（林学会（現森林学会）の初代会長）が1910年（明治43年）に種子の貯蔵を提唱したことが始まりです。翌年に高知県の白髪山の蚕種貯蔵風穴の一角でスギ・ヒノキの種子貯蔵試験が行われました。その後、旧農林省山林局秋田大林区署は、矢立村で15㎡の村有地を借り受け、1

912年（明治45年）に林業専用の種子貯蔵庫を建造しました。これは記録として確認される林業専用のものとしては国内初となるものです。スギの種子を貯蔵して発芽試験を行った結果、良好な成績を収め、以後、風穴を利用した種子貯蔵が各地に広がっていきました。

1934年（昭和9年）、造林種子払下規則の制定による民有林への種子の払い下げの開始に伴い、同年11月、大規模な拡張工事が行われ、種子貯蔵量は従来の1トンから2・5トンに増加し、種子5・8kg入りの貯蔵容器を456個収納できるようになりました。他の造林地への供給用の種子貯蔵も行われ、供給先は東北地方にとどまらず信越地方や朝鮮半島にまで広がりました。

その後、1955年（昭和30年）には山形県に電気式冷蔵庫である若木苗畑種子貯蔵庫が整備され、詳細な時期は不明ですが長走風穴種子貯蔵庫はその役目を終えました。

本遺構は国内最初の林業専用の種子冷蔵施設で、冷蔵機能を有したまま貯蔵部分がほぼ完全な形で現存しています。このため、明治以降の東北地方における造林事業や山林種苗事業の歴史を理解する上で重要なものとして林業遺産としての価値が認められました。

2号倉庫

「発見の小径」で林業の歴史に思いを馳せる

長走風穴館は、秋田県大館市教育委員会が管理する施設の一つで、自然と人文を統合した野外博物館（エコミュージアム）です。長走風穴高山植物群落の中核施設として当風穴館があり、3階から外に出ると、「発見の小径（こみち）（ディスカバリートレイル）」と呼ばれる散策路を歩きながら、自然遺産（高山植物群落や風穴冷気）や産業遺産（風穴冷蔵倉庫や種子貯蔵庫）を発見することができます。様々な発見を通して、風穴を取り巻く地史、高山植物群落の成立理由、林業をはじめとする風穴利用の歴史的背景などに思いを馳せましょう。長走風穴の種子貯蔵庫遺構は、近代における東北地方の造林事業を支えてきたその歴史を今に伝えています。

長走風穴ガイドマップ

参考文献：香月英伸（2022）：長走風穴種子貯蔵庫遺構．森林科学，98，25～27.
鳥潟幸男（2018）：長走風穴館リニューアルオープン．雪氷，60，571～574.